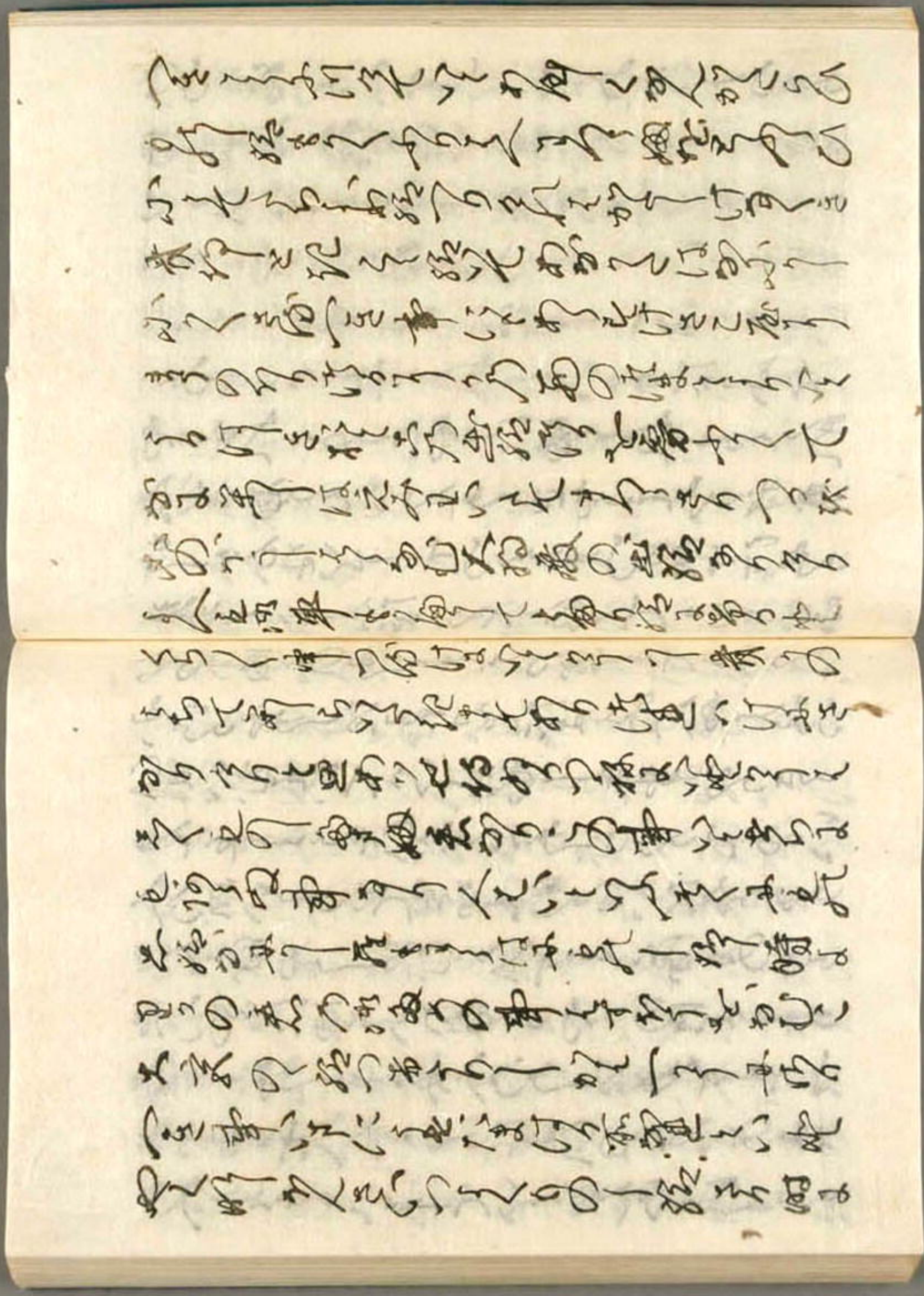
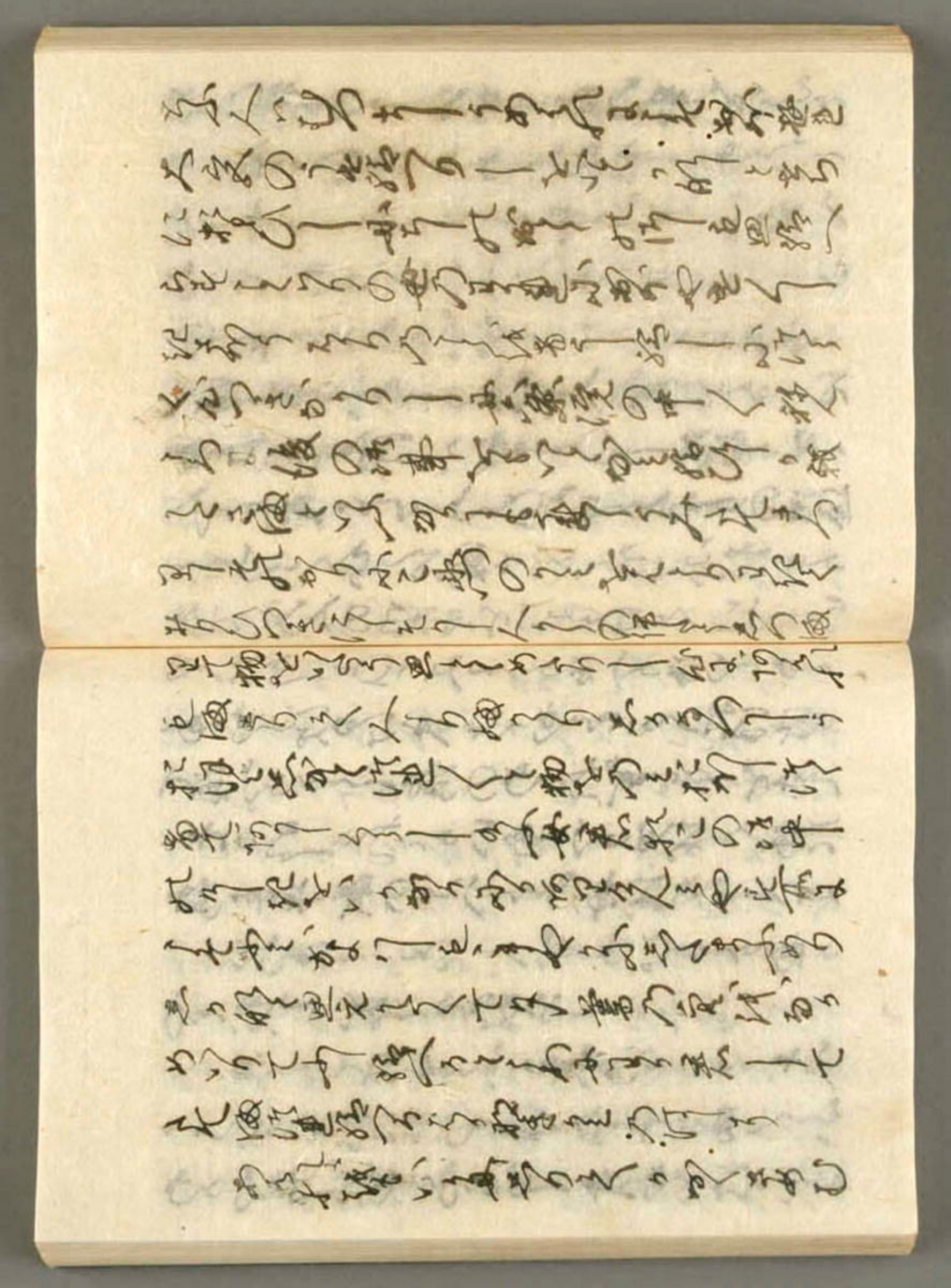
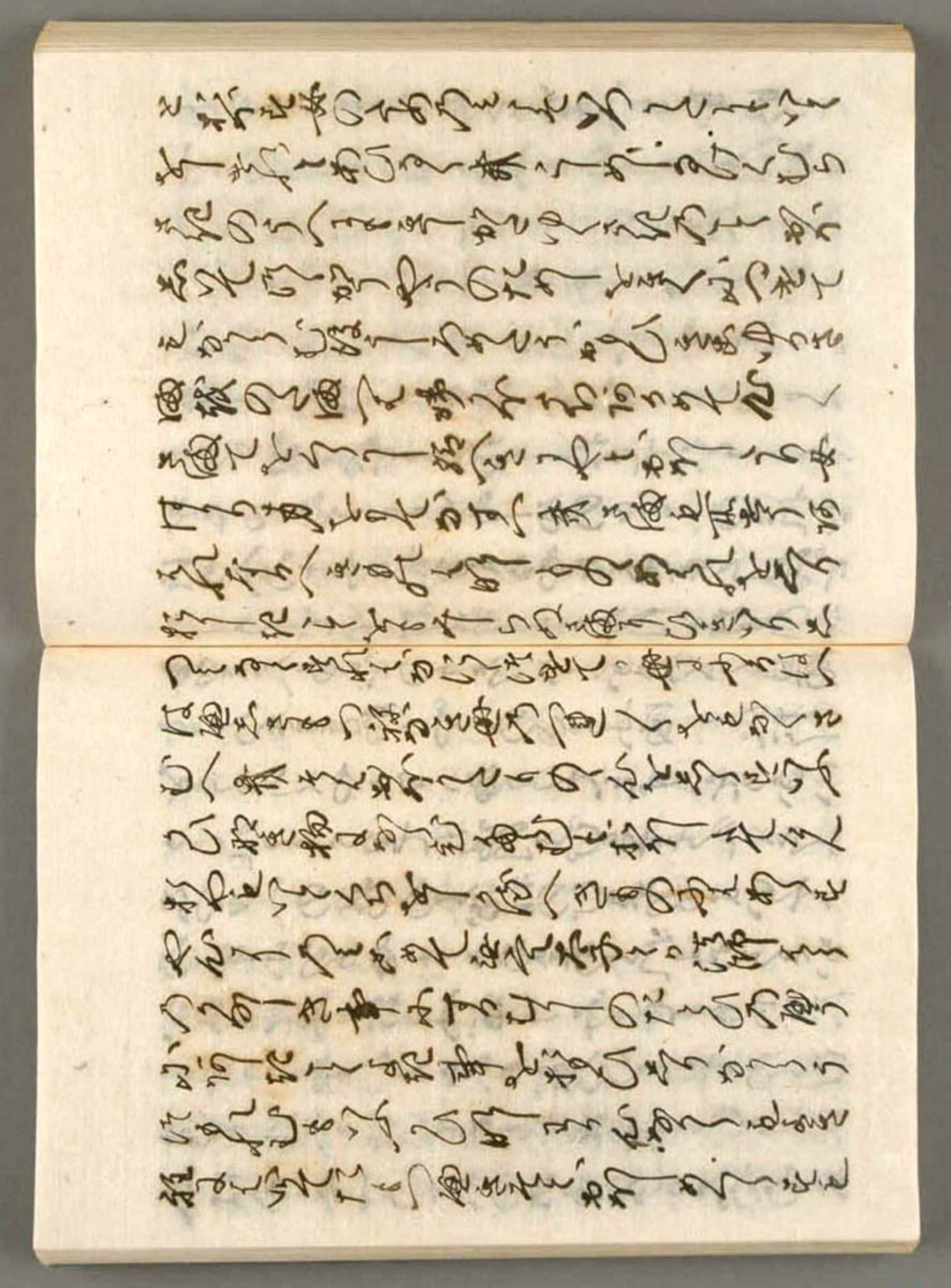
WA 7
263

御め人の名残ありてさりしかば大将この
一家のうち流されわかき御をと給ふ御かたし
をむかへめて御かたへ人々かへしむかし
をとされぬやう計ましきをいて神へまいらふ
ころひさゞし給ゐての名まいらせていやむ
まつく成人月日をへて母の御さかり給ふを
ころをもわすれまわらかさ給はれ心をへまち
わかなと今いかく物うしかの給ゐつまゝくと
ことをさつき給はれ時くさぬ給ふしを給わ
かりつめられけるひてもおそくなれば





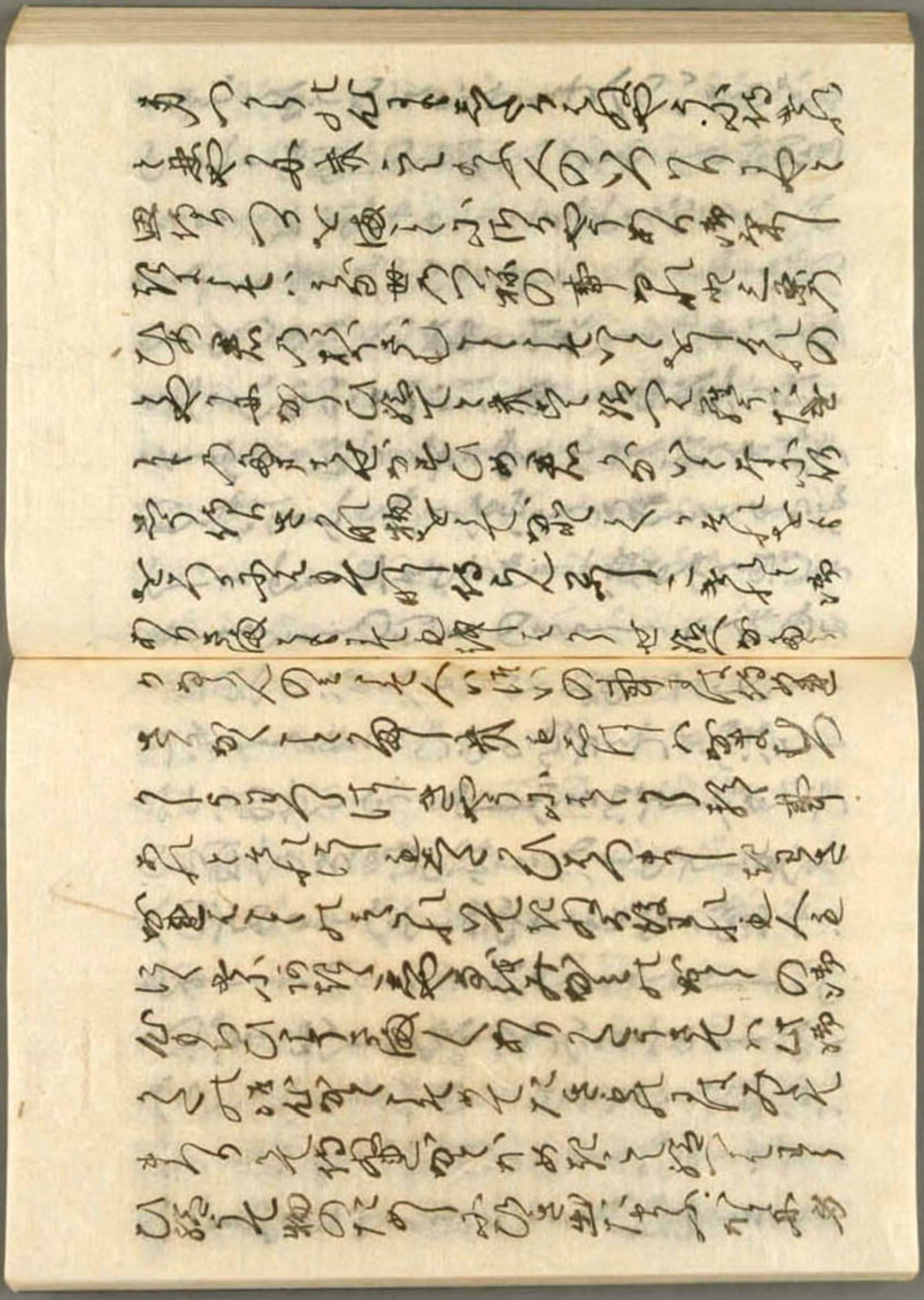


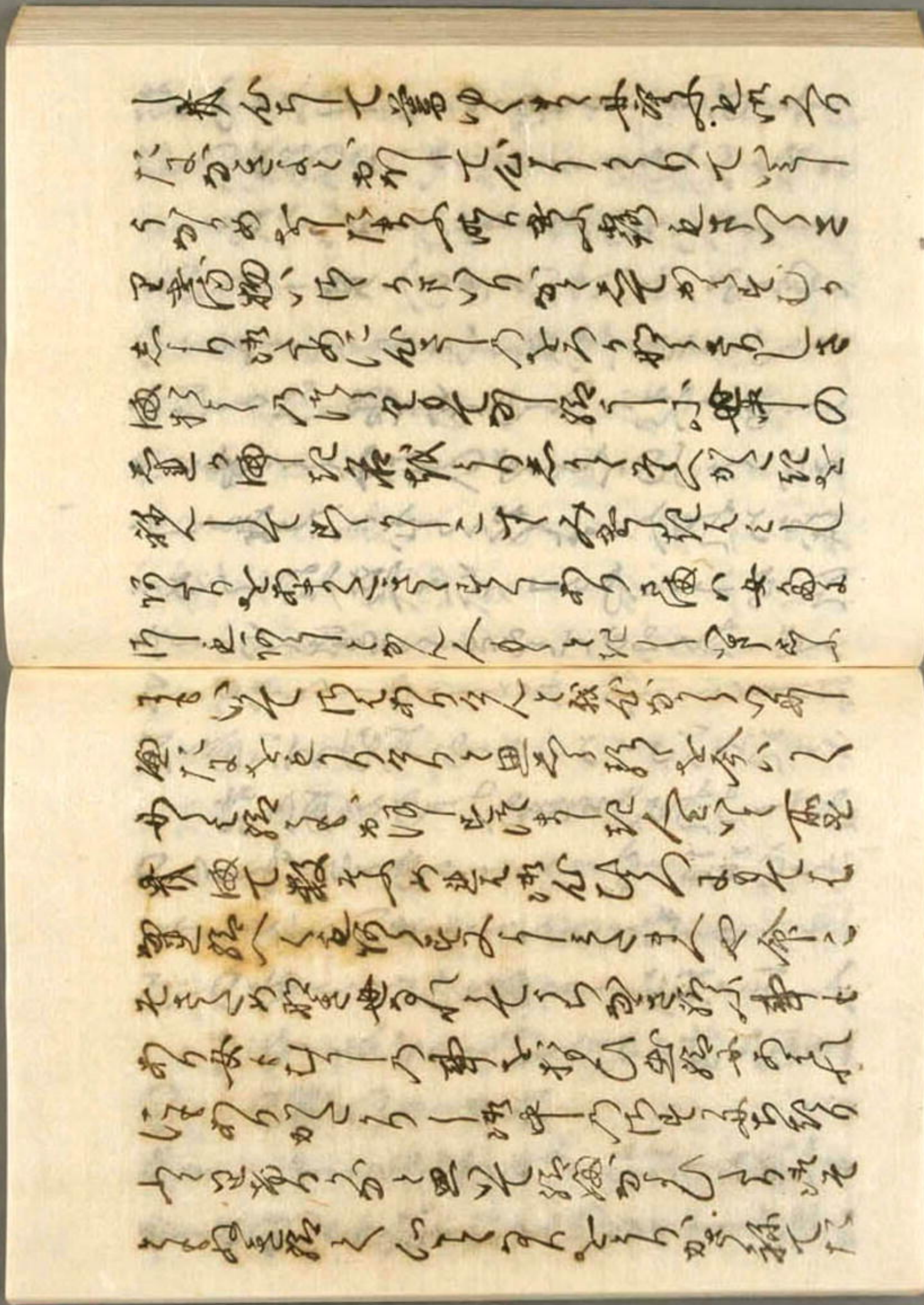
御とらせてそこ御寶と時の人ゝ々やすゝ正
されはしらもかんありかたくてたゝ
いてかんとおかしたつもありかね流ろ
人のもろしそうしられんなをわかりきしに
事かわりけるわけたとさ御かつさ御まゐな
また的〻絹へきおもむきわか孫ともしろさか
さ人みかくさらさ御てそありかりしに名をゑ
ちはゝえゝ母しに時この世ほの世中充ま
あくしきやう叫ふ王さまあるあまく世残
〻そふうりし文の名明して事なとや法し

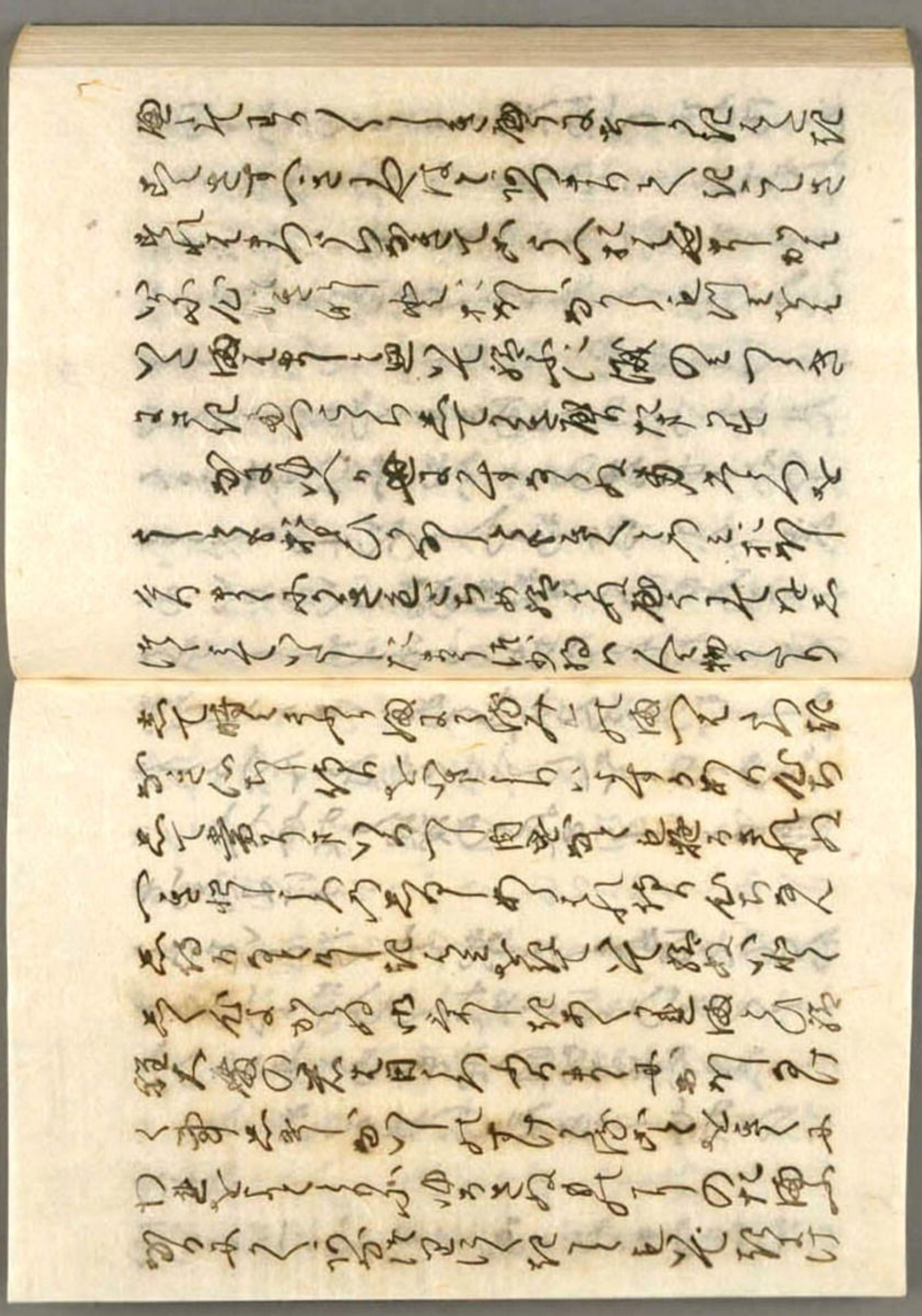
孫へりすゑすさやうふ人の思いふ見すそのわ
みすは思ふさやむ御きうはあり孫とうなうを
作りたやうれ事とわうきひ孫りん見らそ
有へし世乃にはまつさているふれ中しく
人ま孫来わさわりんと思ふと萬しくありて
いますあし思ふつめ給ふもしてうそうたそう
見とひくさうし孫うなりこれうにより御
名なそにうめし御へこさやう叶ん事れ
思ふをも明かそうけてこし孫御らといふれ孫
えんおゐてとおかりとありなりのえてまてゐう

てまハり給ふぬかりなく門ハ待かけし記事をと
を以ひとも承つりまハりそあたりてとい
ひけくそてたるかねをとむめ門まりて記して
むらふるよいとまりかくこなさやつかうおそ
とも人これそてまハりの御さすの兵われても
めうもかかいらひたふさよそ賞をて御かし
うか御さるてぬろしとうきいそて足縁へても六
又ありまてもてむしかそむたれと人もかくさ
もよきとそてまつらをあつかうの御山くわ
やはいとしれ検ふわへ浪人ありて給へこさわり

き御まるめうもてき御しくよむまさみとと於り
たけく着てみ御し給ぬ村たるひぬ袋を御まね
てし忙ろ分兄とを対面いとんめてあそしう
次御りひよ給つ小物かし多給ふ
のかりかし森の書かり小南ちまり里更
をぬてこあかひりともうか公そくつよは汝よ
く花伊喜とその社は御もさとかく御の物ハ
みかよりくして人をの御をりさとて名れて
くすて降て降るむさ承知ふの行し承わり
みもてかおこ御しまうくし記やうるは







はかなく思てゆくかくれはてにき。むかしこ
えたり
年すぎたる男に隠住て世の人にまじはらずとも
人のあはれをしる心はかはらねばやさしとも
言はてしかるべき物のあはれなるほどのつきせぬ
身をいひしたのしかりしに、かへりてかなしきに
そつきぬけり
人の世のうき恨めしきことのかぎりをしりぬ
ありて人をはかなきものに思ひなしてもすべし
おもひもかくれてしかるべきのむかしの
浄中てのかなしこの肉情のこもれる人
忘れぬ物ぞ思ひ染てたたし事あるた
めそのうへはいとまなくいつまでかくありなん
さる頼もしき人もあらねばあるにかひ
なし
ありし所をたちはなれて三郎兵
衛の家に入りし事を思ひの末に、その
かきとめしかども三の君の末にら
すゑを見られもそむかでうたてく
十二人の中のうち誰がゆく末もしらず
なりしもかなしき事のかぎりなれば